

2019年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特2		学校名		県立水戸聾学校						学校長名						岡村 正洋					
教頭名	森 正貴										事務(室)長名						白田 宏保					
教職員数	教諭	51	養護(助)教諭	2	栄養教諭	1	常勤講師	9	非常勤講師	5	実習助手等	6	寄宿舎指導員	15	事務職員	5	技術職員等	3	嘱託	6	計	103
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	幼稚園	6	4	5	0	3	2							14	6		4					
	小学部	1	2	1	0	4	3	0	1	4	3	3	2	13	11		9					
	中学部	2	3	2	4	2	2							6	9		5					
	高等部	1	3	4	4	2	7							7	14		4					
	高等部専攻科														0	0		0				

2 目指す学校像

「 Succession of Traditions and Next step Innovations Ver.2 ～伝統の継承そして次への創造 第2章～ 」 ○魅力ある授業づくり ○安心できる環境の整備 ○協働できる学校 ○地域・関係機関の連携と貢献
--

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
経営企画	経営企画会を毎週開催し、諸問題に対して組織的に対応するように努めている。社会に開かれた教育課程の1つとして、地域を巻き込んだ手話の普及推進を考えている。又、働き方改革に伴う仕事の在り方を1年かけて再考していく。新学習指導要領実施に向けては、学習指導部と連携し今年度より個別の指導計画新様式とした。校内の掲示、展示作品の見直しを総合的にを行い、幼児児童生徒の学習や芸術に対する関心や意欲を高めている。また、検定試験の賞状や新聞記事等を来客者や保護者の方が目にする場所に一括して掲示し、児童生徒の学習の成果を紹介している。新任者研修を研究部等と連携しながら定期的に開催することにより、専門性の向上に努めている。	手話の普及推進として、8月1日に「手話カフェ」を実施した。当日は、手話に興味がある地域の方や特別支援学校の教員が30人程度集まりにぎわった。しかし、目的や実施部(高等部)の共通理解が得られず、一部の職員と生徒の参加になってしまった。次年度は、目的や実施部、分掌等を明確にし、地域に開かれた学校として活動を充実させたい。働き方改革に伴う仕事の再考については、スタンブ簡易起案の導入や完全施設時間の提示等に留まり、具体的な仕事の削減にはつながらなかった。
学習指導	各種検定試験及び各種作品展への出品を実施し、学習に対する意欲と自信に繋がるように努めている。実態把握をするための諸検査が円滑に実施できるように、検査器具の点検と管理に努めている。教科会を組織し、教員の指導力向上に努めている。また、魅力ある図書館となるような環境作りや、読書指導の充実を図っている。情報管理規定に基づいた情報機器等の整備と管理、ホームページとブログを通して外部への情報発信を行っている。	従来の発達検査を次年度より新しい検査に変更するため、次年度はその検査が適当であるか意見を集約する必要がある。新着本などの広報活動を行うことで、読書指導の充実を図りたい。スタンブ簡易起案の導入については、より適切な外部サーバの検討と乗り換えが必要である。
生徒指導	毎月マナーアップ週間を設定し、各部の目標を掲げ、児童会・生徒会が中心となり、生活習慣の定着を図っている。 週開始日に立哨指導を行うことで、児童生徒が安全で安心な通学ができるように努めている。 スマートフォンやインターネット等のルールとマナーに関する生徒指導の充実を図るよう努めている。 アンケートの実施、相談窓口の設置など、いじめの早期発見ができるよう努めている。	学校全体の課題になりつつある、スマホの使い方や適切なSNS・インターネットの活用について、様々な立場の方に講演をお願いした。特に中学部、高等部生は、使用上のルールやマナーを理解しつつあるものの、家庭内の約束を忘れ使用しているケースも多い。生徒保護者間でずれ違いが起こらないように、定期的に確認の場を設ける必要がある。生徒指導記録表が寄宿舎と学校で共通になり、別様式に書き起こす手間が省け、指導方針や内容を確認しやすくなった。書類の様式だけではなく、生徒指導規程の内容も今後見直しが必要。
研 究	自立活動指導力向上研修と関連させ、自立活動における指導力の向上を図っている。外部講師を活用した全体研修や、学部単位による計画的な研修、情報保障に関する研修、自立活動研修などにより、職員相互の専門性を高める研修に努めている。自立活動研修は、聴能・発音・言語・新任者の4グループに分けて実施し、聴覚障害教育の基礎基本を学べるようにしている。	各部の研修内容の共通理解を図ることが課題となっている。系統的な指導を行うためにも、他学部の研修や授業研究会に参加できるように日時を設定する必要がある。また1つの係の仕事内容が多岐に渡り、係を新設するなど見直しが必要である。
進路指導	高等部卒業生9名中(30年度)、大学等進学者3名、県内製造業就職者5名、金融関係就職者1名と希望に応じた適切な進路指導ができた。大学進学希望者の割合が増す中、模試や公開授業等の情報を提供し適切な進路選択ができるよう努めている。また、主体的な進路選択ができるよう企業見学や講演会等の進め方を検討するとともに、進路指導室を効果的に活用できるよう進めている。	今年度は進路講演会を学校公開時に行うことで、来校する企業や卒業生からの話を聞きたいと考えたが、生徒、学校公開参加者、企業間の目的を調整することが難しかった。実施方法や内容についてさらに検討する必要がある。幼稚園・小学部については、保護者が中高等の進路関係行事等に参加できるような流れを検討したい。
保健・安全	学校保健給食委員会を年に2回開催し、学校医、学校歯科医、学校薬剤師等からの意見を得て、幼児児童生徒の安全のための方策を多角的な面から確認している。ヘルスケア安全委員会は年3回(定期)開催し、必要に応じて臨時で開催している。健康面で配慮を要する幼児児童生徒の実態と配慮点を把握し、教職員で共通理解して、有効な支援ができるようにしている。避難訓練は、学校で5回、寄宿舎で5回の合計10回を予定し、幼児児童生徒のより安全な災害避難をめざしている。また、学校防災連絡協議会を年1回開催して、防災関係機関との連携づくりをしている。	保健安全部の企画・運営の3委員会(学校保健給食委員会、ヘルスケア安全委員会、学校防災連絡協議会)の会議内容や出席者(メンバー構成)を見直し、専門家の意見やアイデアを取り入れられるようにする。 避難訓練については、災害や緊急事態の状況想定や訓練実施内容の工夫をするなど、多様な訓練内容を検討していく。
渉 外	研修委員会では、PTA研修会と研修視察を隔年で実施している。今年度は、PTA研修視察を実施し、その反省を踏まえ、次年度PTA研修会の内容を検討する。生徒指導委員会は、マナーアップ運動等の計画と、保護者の要望に応じた内容の講演会を企画している。後援会では、ホームカミングデーと卒業生保護者との交流会を計画し、卒業生への移行支援を併せて行っている。	本部役員、各専門委員会、後援会それぞれの活動計画通り実施することができた。今年度は、関連P会長としての務め、水高P連での発表など、例年以上に本部役員の負担が大きくなった。保護者の人数の減少も踏まえ、活動の精選、組織全体の見直しの時期に来ていると思われる。
相談支援	通級指導教室児童生徒20名、乳幼児児童生徒教育相談70名(うち乳幼児教育相談42名)の、本人と保護者それぞれのニーズと課題に応じた支援を継続して行っている。 聴覚障害のある乳幼児児童生徒が在籍する園や学校、教育委員会、および保健・医療・福祉・労働機関等と情報を共有しながら連携を図るとともに、聴覚障害への理解啓発に努めている。	地域の学校に点在する難聴児童生徒・保護者をつなげるために、霞ヶ浦聾学校と連携しながら、交流会を複数回実施した。来年度は実施に向けて早い時期から計画的に準備を進め、更に意義のある機会としていく。

4 中期的目標

(1)聴覚障害による学習上、生活上の困難を改善・克服するために必要な知識や技能及び態度を身につけ、心身ともに健康で豊かな人間性の育成を図る。 (2)一人一人の聴覚を最大限に活かすとともに適切な情報伝達手段を併用することにより、豊かな日本語を習得することでコミュニケーション力を高め、一人一人の生き方を支えていく。 (3)全ての教育活動をおとして、一人一人の個性や能力の伸長及び基礎学力の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びができるよう支援し、生涯学習の基盤となる生きる力や自己教育力の育成を図る。 (4)幼稚園からのキャリア教育の充実を図り、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。 (5)聴覚障害教育の専門性を活かしたセンターとしての役割の充実を図るとともに地域社会に貢献する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、一人ひとりのニーズに応じた教育と学力の基礎・基本の定着	○個別の教育支援計画・個別の指導計画の有効な活用 ○日本語の読み書き能力の向上、スポーツ文化活動の充実 ○ICTの活用推進、教材・教具の工夫及びセキリティーの意識向上 ○多様な学科、学習内容の奨励と実施
幼小中高の一貫教育の推進	○各部、学科の特色に応じた教育課程の検討(魅力ある高等部の学科、教育課程検討) ○教科会の計画的な実施
聴覚の活用と言語力の向上	○各部を中心とした自立活動研修会の計画的な実施 ○個別の指導計画に基づいた実践
生徒指導の充実	○自ら課題を解決しようとする態度及び他人を思いやる心の育成 ○適切なSNSの活用、生徒が主体的に考えるルール作りと生徒指導の充実
キャリア教育の推進	○キャリア教育一覧表の個別の指導計画への活用と見直し ○主体的な進路選択と人生設計の基盤支援
聴覚障害教育のセンター的機能の充実	○メディカルセンター連絡会、通級指導教室連絡協議会等の関係機関との連携 ○保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象とした理解啓発研修会の実施 ○教育委員会担当指導主事、保健センター保健師、保護者等地域に貢献できる施策推進
職員研修の充実と専門性の向上	○特別支援学校自立活動授業改善研修、本校自立活動(聴覚活用、言語指導、コミュニケーション手段、心の発達等)研修の充実 ○部を中心とした、新学習指導要領を踏まえた授業研究の充実
交流教育での合理的配慮を踏まえた取り組みと地域貢献	○居住地校交流の推進及び評価の活用(合理的配慮の視点) ○学校間交流の内容の充実 ○手話の普及推進
環境整備と防災教育の充実・強化	○校舎老朽化に伴う学習環境の整備 ○教師一人一人が責任・役割を自覚した避難訓練の推進